



南舞岡小だより

学校教育目標「学ぼう つながろう 切り拓こう」

学校所在地 〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1 (Tel.823-4120,4130)

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/>

ありがとう と 助かったよ

学校長 地主 佐和子

秋らしさを感じるようになりました。上陸することはなかったものの、台風発生のニュースを頻繁に見聞きしました。夜に網戸のあの小さな網目の穴を抜けて室内に入ってくる小さな虫たちにも秋を感じます。もちろん虫の声にも。季節は確実に変化しています。

先日、6年生のキャリア教育の授業を外部講師に来ていただいて実施しました。日頃、小学生は働くことについて考える機会はありません。だからこそ、授業で取り組むことは大切だと考えます。授業では知識を得られる場面のほかに、子どもたちが考え、意見を交流する時間もたくさんありました。例えば、『働くとは〇〇である』というお題の答えをたくさん考え、グループで共有するなど、活発に意見が出ていました。その授業の中で次のようなシーンがありました。丁度授業が半分ほど進んだ頃でした。講師が次のように言いました。「では、みんなの興味がある、お金をたくさん稼げるコツを教えましょう。」それを聞いて盛り上がり、目を輝かせる子どもたち。素直な反応でした。続いて次のような話になりました。「これはうちの会社の新入社員研修で使っているスライドです。」テレビ画面には次のような文字がありました。【「消費する側」から「提供する側」に回るということ】
【誰かのために、何らかの「価値提供」をすることである】なるほど、わかりやすいと思いました。しかし、授業の主体は子どもである6年生、この意味を講師は例を示しながら説明してくれました。「『ありがとう』とか『助かったよ』など、言われたことあるよね。小学校に6年間通っていて、『何かをされたらありがとうと言いましょう』と先生から教えられたよね。うちの人からも『お礼を言いなさい』と言われたことあるよね。実際にやっているよね。みんなは既にお金を稼ぐ行為をしています。仕事とは、ありがとう、助かったよ、をお金をもらってすることなのです。お金をたくさん稼ぐには、もうわかるよね。」多くの子どもたちが頷いていました。その後、この1週間であらう、と言われたときのことを思い出してみよう、と続けました。

授業を通して、今の自分を見つめ、将来を想像することは、未来を切り拓く一歩となります。まさに本校の学校教育目標「学ぼう つながろう 切り拓こう」の子どもたちの姿が6年1組の教室にありました。講師は子どもたちの心を揺さぶるたくさんの問いかけをし、その答えを探そうと懸命に考えている子どもたち。それを見ていて、大人である私も改めて働くことについて考えたいような時間でした。

この6年生は今月、修学旅行に出かけます。ありがとう、助かったよ、の6年生の姿が日光でもたくさん見つかることを期待しています。